

# おむすびえほんだより

2018年11月

先日芋ほりを行いました。初めての苗植えから、約4か月。先生たちはちゃんと育っているのか不安でしたが、いざ掘ってみると、立派なおいもが次から次へ出てきて嬉しい限りでした。

子どもたちも一生懸命掘った後、蒸かしたお芋を美味しく食べている姿を見ることが出来て私たちが幸せな気持ちになりました。今度は冬野菜に挑戦?! 今ご期待!

まかせとけ

作・絵:三浦太郎 出版社:偕成社

三浦太郎さんの働く車の絵本たちは、絵はどれも分かりやすく描かれているもの、車ごとの特徴をきちんと捉えて描かれていておすすめです。今回は表紙のショベルカーが中心となる話かと思いきや、実は物を運ぶトラックたちが主役。トラック1つでもこんなに種類があるなんて知らなかった。町で本物を一緒に探すことも出来て一石二鳥!



## こんな絵本もおすすめ



ぼくはブルドーザー!  
作:三浦太郎  
出版社:偕成社



とどくかな  
作:三浦太郎  
出版社:偕成社

ぶーぶーじどうしゃ

作・絵:山本忠敬 出版社:福音館書店

細部まで描かれている自動車の絵が、どれも迫力満点です。車は少し前の時代のものですが、そんなこと気にならないほど。写真とは違った良さがあります。車好きにはたまらない絵本。ぜひ、手に取ってごらんください。小さい子にも嬉しいハードブックになっています。



がたん ごとな  
がたん ごとな  
作:安西水丸  
出版社:福音館書店

ぼぼぼぼぼ

作・絵:五味太郎 出版社:偕成社

擬音のみで0歳児から楽しめるお話。強弱や間の取り方次第で色々な読み方で楽しめるでしょう。お父さんに読んでもらおうとまた違った雰囲気でお話を読み進めていかれると思うのでぜひ、お母さんもお父さんも自分なりの『ぼぼぼぼぼ』を見つけてみてはいかがでしょうか?



のろまなローラー  
作:小出正吾  
絵:山本 忠敬  
出版社:福音館書店

でんしゃにのって 作・絵:とよたかずひこ 出版社:アリス館

祖母の家まで電車でお出かけする女の子。停車駅から『はい、おじゃましますよ』と言って、色々な動物たちが乗車してきます。電車の中で起きるさまざまな出来事すべてに優しさが溢れていて、読んでいてほっこりできるお話。

《とよたかずひこ先生インタビューより》(KUMON がうた・読み聞かせを応援ミーテより記事抜粋)  
これまでつくった絵本の中でも特に思い入れが強いのは、50歳のときにつくった『でんしゃにのって』(アリス館)。もううちの娘たちは読者対象ではなくなっていたので、きざな言い方をすれば、自分が自分のためにつくったような作品です。

子どもの頃、冬になるとよく仙山線という電車に乗って親父とスキーに行ったんです。その電車でおばあさんが手動ドアを開けて「おじゃましますよ」と入ってくる様子を見たことがあって、『でんしゃにのって』は、そのことを思い出して描いた絵本なんです。うららちゃんのおばあちゃんが待つ「ここだ駅」は、小牛田(こごた)駅が由来なんですよ。

